

大腸癌研究会プロジェクト
『pT1 大腸癌のリンパ節転移の国際共同研究』

- 研究 1（日米共同） pT1 大腸癌における「内視鏡摘除後の追加治療の適応基準（大腸癌治療ガイドライン）」の検証とリンパ節転移リスク算出 tool の作成
研究 2（日英共同） pT1 大腸癌のリンパ節転移のリスク因子に関する研究（Formula One Study）

第 16 回会議議事録

2025 年 7 月 3 日

ザ・グランユアーズフクイ 「天山 3」 + web

■出席者（50 音順、敬称略）

- 委員長 防衛医科大学校外科：上野 秀樹
- プロジェクトアドバイザー 兼国際共同研究の研究責任者：杉原 健一（欠席）
- 委員（50 音順）：秋元直彦、味岡洋一（欠席）、池松弘朗、石黒めぐみ、石原聡一郎（代理：佐々木和人）、市川一仁、浦岡俊夫、大内彬弘（欠席）、大沼忍、岡志郎、奥山隆（欠席）、勝又健次、金光幸秀（代理：塚本俊輔）、河内洋、小嶋基寛、小林宏寿（代理：高島順平）、小森康司、斎藤彰一、斎藤裕輔（欠席）、斎藤豊、坂本一博（代理：杉本起一）、島崎英幸（欠席）、菅井有（欠席）、関根茂樹（代理：羽賀敏博）、高松学、田中信治、田丸弓弦、富樫一智、中井啓介（欠席）、永田信二、中村好宏（欠席）、橋元幸星（欠席）、藤盛孝博（欠席）、秋吉高志（欠席）、堀田欣一、松下弘雄、松田健司、山田一隆、山田真善、山野泰穂（欠席）、吉田直久、梶原由規（事務局）
- オブザーバー 48 名

■会議内容

1. 研究 1（Nomogram study）

（1）進捗状況について

事務局より副次的解析について、これまでに 3 編が公表され、2 編が投稿中、3 編が投稿準備中であることが報告された。

その他の現在進行中の副次的解析 9 件について進捗状況を確認した。

委員長より副次的解析の案を随時受け付けていることが案内されたとともに、プロジェクト研究の完了に向けて副次的解析の論文化を加速させることが依頼された。

富樫委員より、担当している副次的解析のうち、現在投稿中の外科切除例の論文以外に、内視鏡治療例についても解析しており、別の論文として公表することが提案され、承認された。

2. 研究 2（F1 study）

（1）進捗状況について

事務局よりこれまでの経過が説明され、昨年 9 月に行われた病理小委員会にて討議された以下の 2 点について報告された。

- ① [除外症例について] プロトコールに合致した有効集積症例 1,024 例のうち、粘

膜筋板内浸潤のみの症例や標本のオリエンテーションが不明などの理由で一部の因子が評価不能であった 19 例を除外し、1,005 例を解析対象症例とすることが合意された。

②〔簇出および低分化胞巢の評価について〕簇出および低分化胞巢は G1/2/3 の 3 分で評価したが、リンパ節転移の低リスク群の抽出を目的として、これらが皆無である G0 について追加評価することを事務局より提案した。研究として進めることに異論はないとの意見がある一方、これらが追加手術の判断因子となった場合に病理医に精神的・時間的な負担となる、追加評価に時間を費やすことは難しいという意見が多く、副次的解析として公表する方向性が合意された。

事務局より、解析対象症例において病理委員が評価した病理学的因子とリンパ節転移に関する解析結果が紹介された。解析結果公表の方向性について議論するため、近日中に病理小委員会を開催することがアナウンスされた。

(2) 副次的解析について

国立がん研究センター中央病院の斎藤委員より新規副次的解析として「T1 大腸癌における粘膜筋板の状態と粘膜内癌部の増殖形態（PG/NPG）を考慮したリンパ節転移予測の検討」が提案され、承認された。事務局より、本副次的解析に参加する研究者について新たにプロジェクト研究委員に就任いただくことを提案し、了承された。

事務局より新規副次的解析として「T1 大腸癌のリンパ節転移リスク評価における簇出 G0 および低分化胞巢 G0 の意義」が提案され、承認された。